

J **apanese text**

2016年 春/夏号 日本語編

伝統

**郷土玩具の楽しみ
祈りと遊びの伝統玩具**

撮影＝大見謝星斗、西山 航 (p.37 今戸焼 白井、p.38 備後屋)

構成・文＝清水千佳子

監修＝中村浩訳 (日本郷土玩具の会会長)

編集協力＝森田一郎 (小さな郷土玩具館 杜館長)

p.033

江戸時代後期から明治にかけてもっとも盛んに作られた郷土色豊かな玩具を「郷土玩具」と呼ぶ。その大半は、子どもの健やかな成長や開運への「祈り」が込められている。自然の素材を使って一つひとつ人の手で作られる玩具は素朴で愛らしく、力強い。後継者難により年々作り手が減っているなか、近年若いファンが増えつつあるのは明るい話題だ。

虎張子

奈良

虎と縁の深い信貴朝護孫子寺の商売繁盛のお守り。虎は一日で千里の道を往復できるという故事から、男児の元気な成長を祝う「端午の節句」の贈りものとされることも。高さ 26cm

赤べこ

福島

柳津町の圓蔵寺建立の難工事を助けた伝説の大牛の群れにちなんだ玩具。赤く塗られた玩具「赤もの」は当時天然痘を祓うとされた。隣の虎ともども頭部が揺れて愛らしい。高さ 10cm

紙

p.034

紙製の郷土玩具の筆頭は、張子。木や土などで作った型に和紙を張り重ね、乾燥させてから切れ目を入れて型を取り出し、再び張り合わせて彩色したもの。材料となる反古紙が豊富にあった、役所や商家が多く並ぶ城下町や和紙の産地で

生まれ、発展した。なかでも認知度が高く、根強い人気を誇るのが達磨と招き猫。ほかに、かつては子どもたちのお正月遊びに欠かせなかったたこや、地方の祭りを彩る提灯やお面などもある。

1. 奉公さん

香川

高松張子の代表作。お姫さまの熱病を自分の身に移し受け、離れた島で独り死んだ奉公人の童女をたたえて作られたという人形。病の子に抱かせてから海に流すと全快するとの言い伝えも。高さ 24cm

2. 三角だるま

新潟

おもりの上に円錐形の紙を巻いたもので、倒れてもすぐに起き上がることから縁起物として親しまれている。赤は妻を、青は夫を表す。子どもを表す白もある。(左)高さ 21.5cm、(右)高さ 16.5cm

3. 鞆鼓

福島

三春張子の人形で、鞆鼓とは雅楽に用いられる両面太鼓。伝統の鮮やかな色彩と一瞬の動きを切り取った楽人の躍動感溢れるポーズ、個性的な寄り目顔が特徴。高さ 21.5cm

4. 笹被り犬

東京

犬張子の発展形で、漢字の「竹(笹の素材)」を「犬」の上に書くと笑いを意味する字に。江戸っ子の洒落っ気が窺える。子どもの部屋に吊るして鼻づまり防止のお守りとした。高さ 9cm

5. 犬張子

東京

背中にでんでん太鼓を背負った犬張子は東京を代表する玩具。犬が多産で安産なことから、犬張子は出産や子育てのお守りとして、江戸時代から誕生祝いに贈られてきた。高さ 13.5cm

6. 起き姫

福島

江戸時代から伝わる小さな張子人形。養蚕が盛んだった時代、神棚にまつ祀って、良質な繭ができるよう祈願した。また、家族の数より1つ多く祀って家内安全や子宝を祈願する風習もある。高さ 3.5cm

7. 龍車

静岡

大きな車輪付きの色鮮やかな龍は底部におもりが入れているため、倒れずに転がっていく。浜松張子特有の車付き玩具は古くからあり、龍車の龍は十二支のひとつ。高さ 11.5cm

8. チンチン馬

沖縄

盛装した姿で馬場へ向かう王と馬を表現した沖縄張子。黄色い箱に付いている紐を引くと、箱裏の針金の弦がはじかれて音が鳴り、馬の首が上下に動き、進んでいく。高さ 31cm

9. だるま抱き招き猫

東京

招き猫と達磨というふたつの縁起物を合わせた、めでたい多摩張子。かつて養蚕が盛んだった多摩エリアでは、蚕の天敵である鼠を捕える猫は守り神的な動物だった。高さ 16cm

10. だるま

群馬

禅宗の始祖、達磨大師が座禅する姿に由来。願を掛けるときにまず片方の目を、成就したらもう片方の目を描き込む。養蚕の守り神・群馬の高崎だるまは、眉が鶴を、髭が亀を表しているのが特徴。どちらも長寿を象徴する動物だ。高さ 15cm

11. 甘木のぼたぼた

福岡

安長寺の1月の初市名物の豆太鼓。もともとは子どもの天然痘除けのまじないだった。竹の棒を回したときに大豆が太鼓を打つぼたぼたという音から命名された。長さ 34cm

金魚ちょうちん

山口

竹の骨組みに和紙を張り、白く残す部分だけ鑑で色止めをして彩色したもの。生産地の柳井市で毎年8月に開催される「柳井ちょうちん祭り」では約4000個の提灯が町を彩る。高さ 25cm

金魚ねぶた

青森

東北三大祭のひとつ、青森ねぶた祭で、子どもたちが持って遊ぶ提灯。

ねぶたとはいともとも睡魔のことで、秋の収穫期の邪魔になる眠気を祓う意味があったという。高さ 18cm

巴

静岡

凧の名産地で、凧合戦も盛んな静岡。なかでも掛川市の遠州横須賀凧は形、図柄の種類が豊富。当地では男児の初節句を凧で祝う風習がある。巴は神社や武家によく見られる紋。縦 76cm

武者凧

東京

江戸では浮世絵をもとにした勇壮な武者や合戦を描いた凧を揚げ、子どもの成長を願った。上は戦国武将の武田信玄と上杉謙信が戦った川中島の合戦がモチーフ。縦 80cm

土

p.036

京都の伏見をはじめ、良質の粘土に恵まれた地域で誕生した土人形や土鈴。土や石膏の型を用いて形成し、乾燥させたのち低温で素焼きし、胡粉を塗ってから彩色して作り上げる。型を使わないひねり人形と呼ばれるものもあるが、型を使うものが主流。農耕が生活の中心だった日本では命を育む土への信仰心が強く、神社の授与品にも多い。また、幼い子どもの痲癩を鎮めるといふ土笛は、鳩を筆頭にミミズクやフグなどさまざまな形のものがある。

1. 饅頭喰い

京都

土人形の元祖、伏見人形。「父と母のどちらが大事か」と問われた子が饅頭を2つに割り、「どちらか美味しいか」と反問した説話に基づく人形で、賢い子に育つようにとの願いから求められた。高さ 22cm

2. 春駒

山形

宮城の堤人形、岩手の花巻人形とともに東北三大人形の一つ、相良人形。200以上の種類がある。春駒は馬(駒)の首形のこと。正月に門付け芸人が春駒を持って家々を回り、歌や舞を披露した。高さ 25cm

3. 土鈴

岐阜

極彩色の釜型土鈴は、以前、岐阜県美江寺の境内で売られていたもの。もともとは蚕室に下げて鳴らし、鼠を駆除するのに使っていたもので、宝珠や米俵、巾着などいろいろな形のものがあった。高さ 11cm

4. 岡村天神

神奈川

横浜市の岡村天満宮の初天神祭の授与品。枕元に置いて寝ると願いが叶うという。袖を広げた姿が西瓜の切り口に似た形は全国でも珍しく、西瓜天神の名で親しまれている。高さ 11cm

5. 鳩笛

青森

土笛で有名な下川原焼人形。当時、子どものひきつけや腹痛は、道教で人の腹中にすむとされる 3 匹の虫「三尸」が原因で、土塊をなめさせれば治るといふ俗信があったことから作られた。高さ 9cm

6. 桃太郎神像

福井

敦賀市の氣比神宮の授与品で、昔話の勇士、桃太郎を神に見立てた魔除けのお守り。モデルは旧国宝の本殿にあった桃太郎の虹梁彫刻だが、戦災で本殿もろとも焼失した。高さ 8cm

7. 宝珠猿

佐賀

戦後すぐ、鹿島市能古見の染色家が世の中を明るくしたいとの思いから作り始めた、のごみ人形。過去 3 回年賀切手の図案になったこともあり、認知度は高い。猿が抱えているのは願い事を叶えてくれる宝珠。高さ 7cm

8. 三番叟

宮城

江戸時代中期、堤焼という焼き物を母体に生まれた堤人形。浮世絵に描かれた歌舞伎役者や力士、遊女などを題材にした作品で有名。三番叟は狂言や歌舞伎などの演目の一つだ。高さ 15cm

9. ズッキャンキャン

長崎

長崎市の古賀人形。長崎弁で肩車を意味するズッキャンキャンは、諏訪

神社の祭礼の囃子の音に由来。祭礼に幼い子を肩車して参加する風習と関連があると見られる。高さ 10cm

10. 雪兎

長野

心癒される兎は近年、収集家に人気の高い中野人形。店頭販売されていないため、毎春開催の「中野ひな市」の抽選販売には、全国からファンが集まる。高さ 7.5cm

現代に活躍する土人形の工人

今戸焼

白井裕一郎さん

p.037

浅草駅から徒歩約 15 分、「今戸焼 白井」は隅田川に近い静かな通りにある。引き戸を開けると、まず目に入るのが棚に並んだ人形たち。狐も雀も干支の猿も、作り手の白井裕一郎さんに似て、控えめでいて愛嬌がある。白井さんが妻の理穂子さんとともに作る人形は、現在寺社の授与品を含め約 90 種類。下写真の猫は、歌川広重の版画に小さく描かれている、招き猫の元祖といわれる今戸焼の「丸メ招き猫」を白井さんが復活させたもの。お尻のあたりにある「丸にメ」のマークは、「入ってきた福が逃げないように締める」という意味と「お金や福を独り占めする」という意味だと考えられている。「広重の版画と当家で所蔵している江戸時代の座猫の型をもとに自分なりのアイディアも加えて作りました」と白井さん。目下、約 1 年半待ちの人気作品で、注文する人が跡を絶たない。

今戸焼 白井

東京都台東区今戸 1-2-18

Tel. 03-3872-5277

10:30 ~ 18:00

月曜～木曜定休

※臨時休業あり

木

p.038

森林が国土の約 2/3 を占める日本では、山間部を中心に多彩な木製玩具が作られてきた。その中で最近若い女性を中心に人気を集めているのがこけしで、第 3 次こけしブームといわれている。また、福岡の太宰府天満宮禊祓の鷺も面白い。各地の天満宮が 1 年に 1 回行う「鷺替え」は、鷺が嘘と同じ音を持つことから「去年の凶事を嘘とし、吉を呼び込む」という神事。現在は天満宮が木像の鷺を授与する形が大半だが、昔と同じように参詣者同士が鷺を交換しあうところもある。

1. こけし

(左) 山形 (右) 宮城

山形、宮城はこけしの二大産地。左の肘折系は三日月形(ひじおり)の目や輪郭を描いた唇が特徴。右の鳴子系は頭部を胴にはめ込む独特の技法で作られている。(左) 高さ 24.5cm、(右) 高さ 15cm

2. 田面船

広島

かつて港町・尾道市の木工職人が、神棚の余材で製作していた。男児が生まれた家に贈られ、豊作を祝う「田面の節句」の日に子どもたちが曳いて、産土神にお参りする。(左) 高さ 15cm

3. うずら車

宮崎

宮崎で愛玩動物として親しまれていた鶉(うずら)をかたどった玩具で、長寿開運の縁起物。2 種類あり、左は法華薬師寺(ほけ)、右は久峰観音(ひさみねかんのん)のもの。素材はタラノキ。(左) 長さ 8cm、(右) 長さ 11cm

4. 鯨車

高知

捕鯨で栄えた高知らしい玩具で、鯨が泳いでいる姿を木彫りで表したものの。反り返った尾びれがダイナミック。前ひれは差し込み式。(左) 長さ 9.5cm、(右) 長さ 19.5cm

5. 鯨舟

和歌山

古くから捕鯨が盛んな地域で、漁師が子どもたちへの土産に作った捕鯨船のミニチュア。海上で他の船と見分けが付きやすいよう、色鮮やかな

模様が描かれている。長さ 20cm

6. えじこ

山形

こけしの工人が作る木の玩具。その名は、昔、主に東北地方で、農作業中などに赤ん坊を安全に寝かせるのに用いた藁(わら)の籠「えじこ(いづめこ)」に由来。頭部が蓋になっていて、中に小さな人形が入っているものもある。高さ 10.5cm

7. 木駒

(左) 宮城 (右) 青森

馬の産地で作られている玩具。左の木ノ下駒(くろ)は鞍に菊模様、右の八幡駒(やわた)は千代紙や点描などの繊細な装飾が特徴。福島(ふくしま)の三春駒(さんしゅん)と合わせて日本三駒と称される。(左) 高さ 18.5cm、(右) 高さ 12cm

8. 鷺

(左) 東京 (中) 大分 (右) 福岡

学問の神様、菅原道真(すがわらみちざね)を祭神とする全国の神社(天満宮)で、開運の神事「鷺替え」の際に授与される。左は亀戸天神、中は老松天満宮、右は太宰府天満宮のもの。(左) 高さ 14cm、(中) 高さ 8cm、(右) 高さ 13cm

9. きじ馬

熊本

九州各地で作られているきじ馬のなかでも有名な吉市産で、頭部に「大」の字が書かれているのが目印。平家の落人がこの地に逃れ、生活の糧として作ったとの説がある。(左) 長さ 23.5cm、(右) 長さ 11cm

郷土玩具に会いに行こう!

小さな郷土玩具館 社

「貴重な郷土玩具を後世に受け継ぐための一助になりたい」との一心から、館長の森田一郎さんが自宅の庭に開館。とくに鷺、鳩笛、中野人形の多さは圧巻。穏やかで博識な館長との会話も楽しい。

東京都西多摩郡日の出町大字大久野 8616

Tel. & Fax 042-597-0556

9:00 ~ 16:00

開館 木曜～土曜

※電話か Fax にて要予約

入館料 大人 200 円

日本玩具博物館

白壁土蔵造りの風情ある建物 6 棟に、国内外の玩具と関係資料約 9 万点を所蔵。現在、春の企画展「ちりめん細工とつるし飾り」(～6月21日)と、特別展「雛まつり～京阪の雛飾り～」(～4月17日)を開催中。

兵庫県姫路市香寺町中仁野 671-3

Tel. 079-232-4388

10:00～17:00

水曜休館(祝日は開館)

入館料 大人 600 円

www.japan-toy-museum.org

備後屋

地下 1 階～4 階の 5 フロアからなる店内は、陶磁器や織物、竹製品や手漉き和紙など全国から厳選した民芸品がひしめく。郷土玩具はこけしや張子など品数豊富。外国人観光客も多く、要所要所に英語の説明書きがある。

東京都新宿区若松町 10-6

Tel. 03-3202-8778

10:00～19:00

月曜、1～4月、6月、7月、9月、10月の第3土曜と翌日曜 定休

bingoya.tokyo

西荻イトチ

店主の伊藤ちえさんが「本場イギリスで感動した味を伝えたい」と作るミルクティーやスコーンと、伊藤さんが大好きな郷土玩具が共存するユニークなカフェ。見ているだけで和むこけしや土人形は、もちろん購入も可能だ。

東京都杉並区西荻北 2-1-7

Tel. 03-5303-5663

12:00～19:00

月曜定休(臨時休業あり)

tea-kokeshi.jp

深大寺 だるま市

群馬、静岡のだるま市と並ぶ「日本三大だるま市」のひとつ。境内に大小約 300 余の縁起だるま店が並ぶ。購入しただるまに僧侶が目入れをしてくれるのは、深大寺の特徴。

3月3日、4日

9:00～17:00 頃

東京都調布市深大寺元町 5-15-1

Tel. 042-486-5511

全国こけし祭り

今年で 62 回目となる歴史ある祭。こけし奉納式や実演展示販売、全国の伝統こけし工人の作品コンクール、張りぼてこけしが温泉街を歩くパレードなど、盛りだくさんのイベント。

9月3日、4日

宮城県大崎市鳴子温泉字新屋敷 65 (鳴子総合支所)

Tel. 0229-82-2026

日本郷土玩具の会

1941 年に発足した日本最古の郷土玩具愛好会で、会員は全国に約 200 名。毎月東京で開催される例会は、貴重な情報交換の場となっている。写真は年 2 回発行の機関誌「竹とんぼ」。年会費 4000 円。

●入会希望者の連絡先

日本郷土玩具の会会長・中村浩訳方

埼玉県和光市下新倉 3-3-7

Tel. & Fax 048-463-7965

※掲載の郷土玩具は個人の所蔵品で、現在は手に入らないものも含まれます。また、郷土玩具は同じ種類でも、作られた時代や工人によって姿形やサイズが異なります。